

新規・重点 安芸地域アクションプラン（案）

安 芸 地 域 本 部
令和6年1月26日（金）

事業の概要

千本山や安田川等の自然資源、魚梁瀬森林鉄道や山村の暮らし等の歴史・文化を活用した観光コンテンツを開発し、既存の観光資源と連携した村内への誘客と観光消費額の拡大を図る。

【実施主体】 ◎馬路村

第5期(R6~R9)		
指標	出発点	R9(目標)
観光客入込数	33,379人 (R4)	37,902人
主要販売拠点売上高	42,438千円 (R4)	53,074千円

これまでの取り組み

- (1) 馬路村ふるさとセンターまかいちよって家の開設 (H8)
- (2) 特別村民制度の開始 (H15)
- (3) 観光拠点等整備事業費補助金を活用した魚梁瀬森林公園オートキャンプ場等の整備 (H30)
- (4) 産振アドバイザー制度を活用した馬路温泉の建て替えの検討 (R4)
- (5) 民間事業者と連携した観光に係る包括協定の締結 (R5(予定))
- (6) インバウンド向けモニターツアーの受入れ (R4)
- (7) Instagramを用いた馬路村の情報発信 (R5~)

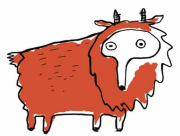
直面する課題

- (1) 受入れ体制の充実・強化**
 - ① 総合的かつ戦略的な観光施策の展開に取り組む体制づくり
 - ② 人材不足
 - ③ 既存施設の老朽化
 - ④ 民間の観光事業者の不足
- (2) 観光コンテンツの開発・商品化**
 - ① 観光客数のコロナ禍からの回復
 - ② 新たな観光コンテンツの開発
 - ③ 既存体験メニューの見直し・磨き上げ
 - ④ インバウンドへの対応
 - ⑤ 観光客がお金を使う場所が少ない
- (3) 情報発信の強化**
 - ① 新規顧客・リピーターの獲得

課題への対応

今後の取り組み

- (1) 受入れ体制の充実・強化**
 - ① ワンストップ型総合案内窓口としてのふるさとセンターの体制検討
 - ② 民間事業者と連携した観光施設等の整備
 - ③ 既存施設の改修・修繕
 - ④ 村内の観光事業の実施体制の見直し
 - ⑤ ふるさとワーキングホリデーや特定地域づくり事業協同組合の活用による人材確保
- (2) 観光コンテンツの開発・商品化**
 - ① 馬路村ならではの観光コンテンツの開発
 - ② スポーツフィッシングの充実に向けた環境整備
 - ③ インバウンド向けの観光コンテンツの開発
- (3) 情報発信の強化**
 - ① SNSを活用したイベントの周知
 - ② 多言語に対応した情報発信



[重点] APNo.5 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大

<安芸地域本部>

事業概要

芸東地域の定置網漁獲物や近海マグロを中心に、漁業者や水産加工業者による加工品の開発・製造・販売を進め、付加価値向上・漁業所得の向上につなげる。

分野	水産業
実施主体	◎(株)美阿丸、◎(有)山本かまぼこ店 他
APへの位置付け	H21.4月

第4期(R2~R5)

指標	出発点	R4	R5(見込)	R5(目標)	評価※ (達成率)
漁業者による加工品販売額	45万円 (H30)	90万円	310万円	300万円	A (103.3%)
水産加工業者の販売額	2.5億円 (H30)	2.3億円	2.0億円	3.0億円	D (66.7%)

※R5(目標)に対するR5(見込)の達成状況 **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満
C:70%以上85%未満 **D**:70%未満

第5期(R6~R9)

指標	出発点	R9(目標)
漁業者による加工品販売額 (9月~8月)	90万円 (R4)	700万円
水産加工業者の販売額 (7月~6月)	2.3億円 (R4)	3.0億円

現状と課題

実施主体

【漁業者】◎(株)美阿丸、土佐室戸鮪軍団、室戸市定置漁業振興協議会、中芸定置網漁業振興協議会
【水産加工業者】◎(有)タカシン水産(佐喜浜工場)、◎(有)山本かまぼこ店、漁師の食卓、(株)岡水産

(1) 漁業者による加工品の製造・販売

【成果】

①(株)美阿丸が新たな加工場を建設(R5.2)

【課題】

- ①加工場における製造・販売体制が不十分
- ②衛生管理体制の強化
- ③新商品の開発スキル向上やネット販売による販路拡大

(2) 加工業者による加工品の製造・販売

【成果】

①(有)タカシン水産が新県版HACCP第2ステージ認証を更新

②新商品の開発、販路開拓が一定進捗

【課題】

- ①衛生管理や輸出、冷凍品、増産などのニーズ対応に必要な施設整備は資材や経費の高騰のため停滞
- ②生産性の向上、衛生管理体制の強化
- ③さらなる販路開拓、販売促進

第5期における取り組みの内容

(1) 漁業者による加工品の製造販売の推進

- (株)美阿丸
 - ①地元及び自社内での原魚調達による加工品製造の強化
 - ②新加工場におけるHACCPに沿った衛生管理の実施
 - ③商品のブラッシュアップ及び他にない新商品の開発
パッケージや製造原価の見直し
未利用魚の商品化
 - ④ECサイトやシーフードショー等の商談会を活用した販路開拓
- 土佐室戸鮪軍団
 - ①イベントでのマグロ解体ショーや商品販売によるPR



(株)美阿丸の加工場

(2) 加工業者による加工品の製造販売の推進

- (有)タカシン水産
 - ①コスト削減を目指した機械化・デジタル化の検討
 - ②地元原魚や自社調達のマグロを用いた新商品開発
 - ③ECサイトやふるさと納税等、インターネットを活用した販売促進
- (有)山本かまぼこ店
 - ①従来の工場における衛生管理体制の構築
 - ②海外輸出を含めた販路開拓
 - ③市場ニーズに対応した新商品開発
 - ④衛生管理に対応した施設整備
- (株)岡水産
 - ①市場ニーズに対応した加工場建設の検討



[重点] APNo. 8 海の駅東洋町を拠点とした地域振興

<安芸地域本部>

事業概要

高知県の東の玄関口である東洋町の観光の窓口及び地元特産品の販売、飲食施設等の機能を持つ「海の駅東洋町」を核とした交流人口の拡大により、地域の活性化を図る。

分野	商工業
実施主体	◎東洋町、◎指定管理者 ((株)Founding Base)、生産者、 地域団体
APへの位置付け	H21.4月

第4期(R2~R5)					評価※ (達成率)
指標	出発点	R4	R5(見込)	R5(目標)	
売上高	1.68億円 (H30)	1.86億円	-	1.76億円	A (105.7%)
来場者数	177,809人 (H30)	169,520人	-	187,000人	B (90.7%)

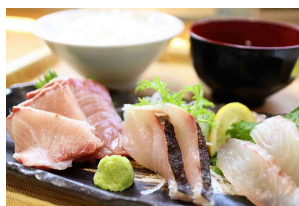
※R5(目標)に対するR4実績の達成状況 **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満
C:70%以上85%未満 **D**:70%未満

第5期(R6~R9)		
指標	出発点	R9(目標)
売上高	1.86億円 (R4)	3.25億円
来場者数	169,520人 (R4)	200,000人

現状と課題

<現状>

- ・お刺身定食やマグロ丼など、地元の魚を使ったレストランメニューの提供
- ・経営改善・オペレーション改善 (R4~)
- ・指定管理による運営開始 (R5)
- ・直販所交流の実施により、東洋町の特産品の販路拡大やPR、また他地域の商品を仕入れることによる、店舗内商品数の充実 (R4~)
- ・BBQ事業による、新たな客層の獲得 (R4~)



<課題>

- ①海の駅東洋町のさらなる認知度向上
- ②集客強化
- ③リピーターの増加
- ④町内事業者(出品者)との協力体制の構築
- ⑤主力商品である魚の安定供給
- ⑥町内事業者、地域団体との連携
- ⑦白浜キャンプ場の活用

第5期における取り組みの内容

(1) 魅力的な店舗づくり

- ①店舗内商品やレストランメニューの充実
 - ②ワークショップ・マルシェ等イベントの開催・誘致
 - ③町内外イベントへの出店
 - ④BBQ事業の実施
 - ⑤店内レイアウトの工夫
 - ⑥SNSを活用した情報発信
- 地域の食材を生かしたメニューの充実やイベントの開催等により、さらなる魅力的な店舗づくりに取り組む。

拡 (2) 直販所交流

- ①特産品の直販所交流による他地域への海の駅東洋町のPR
 - ②店舗内商品数の充実
- 直販所交流を積極的に行うことにより、海の駅東洋町のPR・東洋町特産品の販路拡大につなげる。また、通年で安定した商品数を確保するとともに、観光客・地元客の満足度向上を図る。

新 (3) 新たな観光コンテンツの造成

- ①白浜キャンプ場の運営委託
 - ②グランピング施設の整備
 - ③体験プログラムの造成
 - ④地域団体との連携
- グランピング施設の整備や地域団体との連携等により、交流人口及び売上増加につなげる。

拡 (4) 観光窓口機能の充実

- ①(一社)東洋町観光振興協会との連携
- 多くの観光客が立ち寄る施設として、観光窓口機能を強化することにより、観光客の周遊を促進していく。



[重点] APNo.14 日本遺産を活用した中芸地域の活性化

<安芸地域本部>

事業概要

日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域のインバウンドを含めた交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。

第4期(R2~R5)

指標	出発点	第4期(R2~R5)			評価※ (達成率)
		R4	R5(見込)	R5(目標)	
中芸地域主要施設 訪問者数	537,560人 (H30)	525,906人	-	550,000人	B (95.6%)

※R5(目標)に対するR4実績の達成状況 **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満
C:70%以上85%未満 **D**:70%未満

分野

観光

実施主体

◎中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会

APへの位置付け

H21.4月

第5期(R6~R9)

指標	出発点	第5期(R6~R9)	
		R9(目標)	
中芸地域主要施設 訪問者数	525,906人 (R4)	570,000人	

現状と課題

〈現状〉

- ・日本遺産認定 (H29)
- ・日本遺産のストーリーにちなんだ体験プログラムイベント「ゆずFeS」の開催 (H29~)
- ・協議会へ産振アドバイザー導入 (R2)
- ・日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会発足 (R4)
→ガイド会員:18名 (R5.12月現在)
- ・ゆずロードミュージアム開館 (R5)
- ・文化庁の総括評価・継続審査を受検し、認定継続及び重点支援地域へ選定 (R5)
- ・「第1回森林鉄道サミットin高知&中芸日本遺産フェスティバル」開催 (R5)
→阿里山林業鉄道(台湾)関係者の招へい
- ・文化財保存活用地域計画の策定への参画 (R5~)
- ・徳島県三好市と香川県三豊市、琴平町と連携したパンフレットの作成 (R5)

〈課題〉

- ①日本遺産関連商品やツアーの造成
- ②観光客受入れ体制の充実
- ③情報発信
- ④既存イベントの磨き上げ
- ⑤拠点施設の検討
- ⑥人員体制の強化
- ⑦5町村の連携強化



第5期における取り組みの内容

(1) 交流人口拡大に向けた仕組みづくり

- ①研修会等の受講及び関係機関との連携による日本遺産関連商品やツアーの開発、売り込み
- ②台湾との交流、連携
- ③外国語対応等のパンフレット作成やガイド人材の育成
- ④SNSを活用した情報発信
- ⑤イベント出展など全国の日本遺産関係者との交流
- ⑥既存イベントの磨き上げ
→日本遺産関連商品やツアーの開発による交流人口の拡大
既存イベントの実施や情報発信による新たな層の交流人口の増加
- ⑦構成文化財の保存・活用に向けた文化財保存活用地域計画の策定への参画



新

(2) 日本遺産サミットの誘致

- ①R9年度開催に向けた受入れ体制の強化
→日本遺産サミットの開催による、県内外での認知度の向上
- ②日本遺産サミット開催地域への視察



(3) 次回継続審査に向けた体制の強化

- ①事業推進のための体制再構築
- ②地域商社もしくはDMO設立の検討及び準備

